



ライオンズクラブ国際協会332-C地区 第1R1Z

仙台エコーライオンズクラブ

SENDAI ECHO LIONS CLUB

2021

4月号

Vol.178



「エコーのタベ」ご参加の皆様 KAMIFUJI にて

「エコーのタベ」in KAMIFUJI

2020年9月10日は例会後に、富谷市の内ヶ崎酒造にて酒蔵見学と加美町のレストランKAMIFUJIにて「エコーのタベ」が行われました。薬萊山の麓にあるKAMIFUJIは大沼宏伸しがオーナーをされるレストランで、隣にはペンションがあり、敷地内にはキャンプ場の建設にも着手されております。「エコーのタベ」では地元加美町の食材がふんだんに使われた美味しいお料理を頂き、食後にはペンションの見学をしたりと、LL会員も一緒になって楽しいひと時を過ごしました。仙台市内から車で約1時間のKAMIFUJIの近くには、やくら薬師の湯やゴルフ場、スキー場、ジンギスカンで有名なやくらハイツもあり、ご家族やお仲間で時間をお過ごすのに最高の場所だと思います。またぜひ機会を設けて訪ねたいと思います。



目 次

- [1 「エコーのタベ」in KAMIFUJI](#)
- [2 内ヶ崎酒造de酒蔵見学](#)
- [3 例会TOPICS
 - ・第1406回
 - ・第1412回（指名例会）](#)
- [例会 本日のスピーチダイジェスト](#)
- [4 アクティビティと行事のご報告](#)
- [5 3.11あれから10年 L.佐々木 金治
こだま支部発足](#)
- [6 お歳祝いを迎えた方々
新入会員紹介
今月号の寄稿
「昭和の人（斜め節考作文の会）」 L.黒澤 武彦
「幻のオーガスター2020」 L.大久 晃功
編集後記 PR情報委員長 L.齋藤 裕子](#)

内ヶ崎酒造 de 酒蔵見学

2020.9.10 (thu)

例会後に愛子観光バス様のご厚意で大型バスを貸し切って、富谷市の内ヶ崎酒造へと出発しました。内ヶ崎啓Lのご案内のとも、宮城県最古の酒蔵を見学しました。見学の他に酒蔵では「鳳陽」の試飲と直売会も開いて頂き、その場で飲む日本酒はまた格別でみなで買い求めました。



さらに今回は内ヶ崎家の別邸をご案内頂きました。
門構えをくぐると新緑の美しい庭園と明治後期の建築物が目に飛び込み、敷地内に置かれた様々な備品や道具からも明治の時代背景が想い起こされる大変貴重な時間となりました。

例会Picup! 第1403回お月見例会

仙台エコーLC三大行事「お月見家族例会」が10月22日に勝山館にて開催され、40名超の方々にお集まり頂きました。今年は新入会員の山口慶子Lとソプラノ歌手田中寿美様による「お月見コンサート」が開かれ、素晴らしい演奏をご披露頂きました。「秋のひと時を音楽で風景の中に行つてみましょう」をテーマとされた音楽空間で食事を楽しみ、会員同士が交流をより一層深める場となりました。また、お誕生日の阿部善信Lには特別にハッピーバースデーソングがプレゼントされました!



●例会 TOPICS

第1406回例会 2020.12.10 (木)

この度の例会は、千葉エコーLCの皆さま方をお迎えして行われました。



第1412回例会(指名例会) 2021.3.11 (木)

永富ガバナーをお迎えし、東日本大震災から10年目を迎える中での例会となりました。指名例会として、来年度以降のエコーの活動を支える副会長予定者が菅原博委員長により発表となりました。



- ◆次期会長 倉林三四郎
 - ◆第一副会長 佐藤秀彦
 - ◆第二副会長 荒井美佐子
 - ◆第三副会長 前田大輔
- 次年度のますますのご活躍を祈念しております。

例会 本日のスピーチダイジェスト

第1398回例会 2020.8.6(木)

「新入会員スピーチ」

新入会員の山路謙一Lが会員スピーチに登壇され、お話し頂きました。生い立ちからこれまでのエピソード、高校時代に打ち込まれていたというラグビーの思い出や東日本大震災での対応など、ご家族とのお話しも交えてスピーチして頂きました。



(株)阿部和工務店
取締役営業部長
L.山路謙一

第1399回例会 2020.8.27(木)

「新入会員スピーチ」

新入会員の菅原正和Lの学生時代、社会人として経験された企業組織や地域拠点でのこと、地元に戻られ町作りに参画するきっかけから政治を志し、35年間に及び仙台市交通指導隊を含む様々なボランティア活動や仙台市議会議員に初当選するまでのエピソードをお話頂きました。



仙台市議会議員
L.菅原 正和

第1402回例会 2020.10.8(木)

「元客室乗務員が伝えるwithコロナのおもてなしの心」

今後のCAさんのおもてなしゴーグルやマスク、ソーシャルディスタンスなど非対面、非接触となっていくこと、また飛行機の換気は3分で入れ替わる(新幹線は6分、バスは5分)など、新しい安全安心への取り組みについてお話を頂きました。



株式会社
スマイルアップ
代表取締役
大原 みよ子 様

第1404回例会 2020.11.12(木)

「新入会員スピーチ」

新入会員の高橋博子Lに自己紹介を兼ねてスピーチを頂きました。中学時代に取り組んだ部活動や東京での高校・大学生活の思い出、地元に戻れられてから社会人として得られた思い出など、当時のエピソードを交えて楽しく話して頂きました。



(株)西仙台ゴルフ場
代表取締役
L.高橋 博子

第1405回例会 2020.11.26(木)

「無限の可能性に気付ける脳トレ」

9月に根津整骨院を開業された根津伸明様にスピーチを頂きました。ドイツで生まれたライフキネティックという神経細胞間に新しいシナプスを作り、眠っている能力を活性化し、柔軟性や処理速度を高くし、ストレス軽減や認知機能強化を高めるプログラムについてお話を頂きました。



根津整骨院
院長
根津 伸明 様

第1406回例会 2020.12.10(木)

「インタビュー取材で印象深かった方々」

月刊誌の「りらく」でおなじみのプランニングオフィス社で、8月に代表取締役に就任された安達昌宏社長をお迎えいたしました。大人の情報誌をつくろうと2006年に創刊された当時の思い出話やこれまでにインタビューされた多くの方々とのエピソードを伺いました。



株式会社
プランニングオフィス
代表取締役
安達 昌宏 様

アクティビティと行事のご報告

創立者嘉藤亀鶴初代会長のお墓参り

2020.8.6 (火)

毎年恒例となる当クラブの創立者嘉藤亀鶴初代会長へのお墓参りを行いました。真夏日の炎天下の中、橋本誠一会長をはじめ9名で参加いたしました。



レディの会 お食事会 2020.11.18 (水)

快晴のなか、今期初めてとなるレディの会主催のお食事会が開かれ、ゲスト1名を含む15名が参加しました。今回の会場となりましたウェスティンホテル26階のレストランシンフォニーは、窓からの景色も素晴らしい、開放的な空間で楽しいお食事会となりました。



継続アクト

第63回植物感謝祭・第42回「植物の詩」作詩コンクール

2020.11.26 (木)

仙台市野草園の関係者の皆様のご協力のもと、恒例の植物感謝祭と「植物の詩」作詩コンクールは、新型コロナ感染拡大防止のため、入場者数や開催時間など大幅に規模を縮小した中で開催されました。来年はまたいつも通りの感謝祭が開かれますよう祈念いたします。



継続アクト 第44回宮城県民大会バスケットボールジュニアの部 兼 第52回ミニバスケットボール大会宮城県予選

2020.12.27 (日)

11月21日(土)に開幕したバスケットボールの大会の決勝戦が行われました。今年は新型コロナ感染拡大対策の中、学校・大会関係者の懸命のご努力のもとで開催となりました。大会は女子が片平、男子は沖野が優勝しました、おめでとうございます。来年はまたいつも通りに本大会が開催されますよう祈念いたします。



10年前の3.11、私は栗原市栗駒町での配達を終え、松島大和三陸道インター付近のパーキングに車を停め、次の仕事の予定を見ている場面でした。突然大きな揺れを感じ、乗っている車がまるでトランポリンのように跳ねている状態がしばらく続き、ただならぬ事と予感しました。道路が通行止めにならないうちにと慌てて塩釜の事務所の方へと急いで戻りましたが、防災無線が10M以上の大津波が発生するとの緊急警報を繰り返し、即刻避難するよう悲痛な声で訴えておりました。

会社では次男が車の避難を試みておりましたが、すぐに退避することを告げ、自分は高台のスーパーへと向かったところ、多くの市民が同じ考えのもと駐車場に殺到しておりました。15時15分に潮の引き始め現象が発生し、間もなく大津波が何度も塩釜市を襲いました。その時次男は屋根の上に登り、自動車が津波に飲み込まれていくのを呆然とみていたようでした。早く高台に来るよう話をしているうちに電話も繋がらなくなってしまいました。

家内は登米市にある墓に長男長女と三人でお彼岸前の墓参りの最中で、我が家家の墓石が倒壊していくのを見ることになってしまいました。約8時間かけ塩釜までやっと到着し家族全員が集合することができました。70数台あつた車のうち2台だけが走行可能車として残ったので、高台の避難場所で車上生活をしばらくの間余震に怯えながら送ることとなりました。

地震の次の日、事務所に向かいましたが45号線は通行止めとなつており別ルートで道を探しながら事務所に胸の高さまで水に浸かりながら入つてみると、中は散々たる状態で手が付けられない状況でした。周りのことや取引先のことも心配で、家内と二人であちこち回りましたが、道路が寸断されていてなかなか到着することができず、電話も通じず、安否を確認するのにしばらく時間がかかりました。車上生活もぎゅうぎゅう詰めの状態でしたので避難所の小学校にお世話になり、塩釜市民や顔見知りの知人が元気でいたことで少しほつとしたことを覚えております。

当時、同業者からは「株式会社 人のために生きよ」は再起不能と言われたものでしたが、当時172名ほどいた従業員ともばつばつ連絡が取れ、50名ほどで会社再建・復興のための配送が始まりました。車は被災地へと向かいましたが、橋が落ちていたり道路が陥没していたりしてどここの被災地も大変な状況でしたが、気仙沼・陸前高田・大船渡・釜石・宮古へはドライバー達も必死の形相で出発していました。それからは東北各地から注文が殺到し、食事をする時間もなく1日1000km以上走る日もあるような状況でした。

様々な体験をした方々からお話を伺うこともありましたが、自分たちより大変な思いをされて生き延びてこられたことに敬意を表したいと思います。また家族や親類、友人などを失った話や、誘導にあたってくれて命を落とした方々が多くおられ、涙なくして聞くことが出来ないことがたくさんありました。

あれから10年にして思いますところは、自分がこれまで災害の報道をテレビ等で見てまいりましたが、今度は立場が変わり見られる側になっていることに大変驚きました。報道各社は特番で様々な思いを紹介しておりますが、

家族を失つた方々にとって、10年経つたからといって節目ということはない大切と語っておられたことが大変印象的でした。日本政府は10年の節目の追悼式で区切りを付けたいようですが、この東日本大震災はいつまでもいつまでも心に深く残る大災害がありました。

日本政府の手厚い支援につきまして、私は唯々深く感謝をしている一人であります。心の思いはどこまでもいつまでも続いていくように思います。3.11以降も日本各地では様々な災害があちこちで発生しておりますが、我がエコーの橋本会長や阿部幹事が熊本地震被害の時にボランティアとして遠路行ってくれたこと、自分たちの大変な時に支援して頂いた皆様へのご恩返ししようとする崇高なるライオンズ精神の現れとして行動されたことについて立派だなと思う次第であります。地震・大雨・川の氾濫・地すべりなど大変な事態が続いておりますが、ボランティアの方々が崇高なる意識をもって行動されているのを目の当たりにして唯々頭が下がる思いでございます。

日本政府の支援体制は私から見れば素晴らしい感謝以外の感情はありませんが、3.11以降40%の方々が不安を感じている新聞を見てなんとかしてあげられないものかと思います。人間はどんなに満たされても常に不満はあるもので、自分で解決しなければならないこともあるのではないかと自分は思うわけあります。復興は道路をはじめ建物も全ての分野で私共の生活を便利にしてくれております。自分の住む塩釜市をみた場合、基幹産業である魚市場はじめ護岸かさ上げ工事は浦戸の島々を除きほとんど終了しております。日本国民にこの復興予算のための復興税を令和19年まで負担してもらうことも忘れてはならないのかなと思います。

10年目の企画といたしまして被災地の子供たちを仙台空港よりJALに乗せ、上空から復興状況を見た後、バスにて被災地を見て回るという事が3月28日に計画されておりまして、私も20名の子供たちを招待しております。石巻の大川小学校はじめ、仙台の荒浜小学校等の大きな被害を受けた場所では大いなる体験及び感慨を受けることと思います。3月7日のNHKの番組に村井知事が出演され、まだまだ道半ばと平澤復興大臣に話をされておりましたが、心のケアとか問題はたくさんあるようでございます。これからも前を向いて進んでいけたらと思っております。新しい住宅も高台に移ったように、未来は今の積み重ねであり高い意識で真摯になっていかなくてはならないように思います。苦しみから逃れる事無く苦しみに立ち向かい、それを乗り越える未曾有の経験をした優秀なる民族であると思います。10年経つて改めて思いますことは、この東日本大震災があったことを風化させることなく後世に語り継ぐことこそ実体験をした私たちの責務であると思います。福島県は原発事故も絡み、未だ大変な苦しみの中にあります。皆さんと共に見守つていかなくてはならない事と痛感致しております。



仙台こだま支部が発足します

今期中の認証を目指し、仙台エコーLCとしてもはじめての支部クラブ「仙台こだま支部」がスタートします。「こだま」は親クラブ「エコー(echo)」の日本語訳であり、仲間同士が互いに呼び掛け合いこだまするという「エコー」の由来からもきています。「コロナ禍におけるこれからの活動をどう進めるべきか?」世界中のライオンズがいま直面する大きな課題となっています。仙台エコーLCは仙台市内の大学生ボランティアグループと連携し、これからも頻発する自然災害への人道支援や様々な奉仕活動でのライオンズ側の窓口となり、被災地やボランティアを望まれている地域への迅速な支援活動を行うべく当支部が発足されます。万一、大規模な自然災害が当地区で発生し、人出を要するような場面となつても大学生ボランティアグループとスムーズな連絡網を築き、互いに協力体制を敷いて安全かつスピーディな奉仕活動に取り組める体制づくりをしてまいります。初代の三役には、会長に伊藤孝L、幹事に山口克弘L、会計に山口慶子Lが就く予定となっております。親クラブの皆様にも応援をよろしくお願い申し上げます。



新入会員紹介

仙台エコーLCIに、新たなメンバーが加わりました。これからよろしくお願い致します。



(株)BULLs JAPAN
代表取締役
L.成田 三郎
スポンサー L.佐藤 裕司

今月号の寄稿

昭和の人（斜め節考作文の会） L.黒澤 武彦

久しぶりにエコー誌から稿を頂き感謝しています。“昭和の人”ですが、1930年代に生まれた85歳以上の人達です。40年前からの文学？グループです。元商業経営者、元職人、家業を継いでも文学や絵画、建築技師等本業と趣味を捨てなかつた仙台人、若手ながら著名人もおりました。そんな時、仙台市内の各商店街の後継者の集まり（商業若手経営者、老舗商店や工場の後継者）が一同に会し「仙台市商店街青年部連合会」を設立されたのが1982年、活動主旨として市内商店街振興と後継者育成で「仙台のまつり特別研究委員会」が、関連団体として仙台市、仙台商工会議所が後援して、さらに「伝統町名を守る会」が設立された。

その主メンバーが、当時から郷土史文学、まつりの由来の発掘と復活再現そして参加実行（青葉まつり）、政宗公座像納陵行列の各町青年部員の参加動員模様にも明るい青年たちがこの“昭和の人”です。静かな倫理観と知的で優れたローカル感覚が文筆表現をする人尚存在しているのです。活字に親しみ、社会の現象を文章で表現し、執筆の文化を頑なに研究して書き続ける人たち、今も老いを自覚しながら尚、したたかに書き続けているのです。

私もメンバーの一人ですが、「斜め節好創作の会」では主に川柳です。エコー誌に紹介させて頂く『令和三年・時事川柳』は約100首から選句してみました。「斜め節考」ですから、選者は暮夜亭來音です。世界中で暴れ回っているコロナ禍を捉えた作品が多くありました。何処の国も政府も、携わる人々も先の見えない緊急事態におたおたしている現象がみえみえです。戦争を体験した私たち年代は老いてはいますが、だから見えてしまう斜めからの静かな視点で考察し、痛烈に表現しながらも笑える、5・7・5の創作でありたいと思うのですが…。「斜め節考」メンバーは今は僅かな老人たちですが、真摯な論理と豊かな発想で創作し、その作文をお互いに文通し友情を灯し続けている日々です。

『令和三年・時事川柳』 選・暮夜亭來音

- 年明けて コロナの先は 五輪霧中
- コロナさて 巷に行き交う マスク美女
- マスクより 総理の周りの ほっかむり
- 見え見えも テレビは難しく 解説す
- 脱酸素 待ってましたと 原発屋
- 再稼働 人類の先に見切りつけ
- ミャンマーを見て 第九条を読み直す
- 飲食店 店開けるほど 首閉まる
- 責任の腹切り 今は白を切り
- 人類の劣化 コロナ笑ってる



傘 寿
L.安道 光二



卒 寿
L.黒澤 武彦

お歳祝いを
迎えられた方々



喜 寿
L.鴨原 信行



喜 寿
L.伊藤 孝



喜 寿
L.櫻井 勝雄



古 希
L.村田 寿和



古 希
L.菅原 博



喜 寿
L.佐々木 弘子

今月号の寄稿

幻のオーガスタ2020 L.大久 晃功

2021年4月11日、松山英樹選手が悲願の「マスターズ」の初優勝を飾った嬉しいニュースは瞬く間に世界を駆け巡った。解説席の中島プロや宮里プロが男泣きするほどの快挙である。

川上浩Lの紹介で、松山プロの専属キャディーを6年続けた進藤大典氏をエコーの例会にスピーカーとしてお迎えしたのは2019年7月であった。それが縁で、昨年進藤氏が企画した「2020年のマスターズ特別観戦ツアー」の企画をお手伝いすることになった。それなりに参加者が集まったところにコロナウイルスの感染拡大が始まり、徐々にツアーの雲行きが怪しくなり、結局大会は11月に順延され、しかも無観客試合になってしまったのだ。

もし昨年4月に予定通りに大会が開催され、私もオーガスタに同行し、そしてその時「松山選手が優勝」して、当初の予定通りにコース隣接の一軒家にて松山選手を囲んでのプライベートディナーが行われていたら思うと、妄想が広がり裏付けない日が続いた。

一日も早くコロナ感染が収まり来年のツアーが実現することを切に祈るばかりである。



編集後記

エコー誌は本来なら年3回発行でしたが、コロナ禍ライオンズ活動自粛の為、行事が少なく年2回発行になりました。その中でも開催できた行事に感謝をして、皆様にエコー誌で楽しんでもらいたいと思いました。新しい仲間が増えたり、まだ支部が出来たりとニュースもありました。あと少しの我慢と思い、皆様と行事の共有ができる日が早く来るよう、又皆様のご健勝をお祈りして挨拶とさせて頂きます。

PR情報委員長 L.齋藤 裕子